



抗加齢の治療で 観光交流を提言

ルーマニア大使

ルーマニアのラドウ・シェルバン駐日大使と国立加齢科学研究所(INGG)のボグダン・パルティネヌ所長、INGGと業務提携しているジエロントロジー総合研究所

仲井真知事(右から3人目)と
意見交換したルーマニアのラド
ウ・シェルバン駐日大使(同4

人目) 13日、県庁

(岡山県)の関係者らが13日、県庁に仲井真弘多知事を表敬訪問した。宜野座村の「かなタラソ沖縄」で取り入れているルーマニア発アンチエイジング治療の観光資源の活用などについて意見交換した。

シェルバン大使は「ルーマニアは老化予防のノウハウを持つており、世界中から観光と治療を目的に訪れる。沖縄にもノウハウを使った拠点ができる、医療と観光の発展ができる」と述べ、ルーマニアとの交流促進を求めた。仲井真知事は「長寿県の復活に向け、県内の医療関係者とも意見交換してほしい」と要望した。

抗加齢や心身機能改善プログラムの効果などを検証し、観光資源の一つとしてメニューづくりにつなげる。